

Family 392号

2020年1月

がんばろう!

復興に向けて
みんなと共に

- ◆ 2019 年度 FUJITSU ファミリー会 秋季大会
- ◆ LS 研究委員会 2020年度研究分科会・ICT 白書
- ◆ 講演録 病気かもしれないが健康でもある
- ◆ 講演録 各駅役者の旅
- ◆ From 静岡 富士山が魅せる自然美と文化にふれる旅
東海道・ふじのくに逍遥



年頭のごあいさつ

CONTENTS

- 年頭のごあいさつ 2
- 秋季大会特集 3
- LS研究委員会 6
- 講演録 10
プロランニングコーチ
駅伝、マラソン解説者
金 哲彦 氏
- 講演録 12
俳優
石丸 謙二郎 氏
- HUMAN HUMAN 14
公益財団法人笹川スポーツ財団特別研究員
東京オリンピック・パラリンピック競技大会
組織委員会ボランティア検討委員
西川 千春 氏
- Family's Information 15
- クロスワードパズル 17
- 支部見聞録(東海支部) 18
From 静岡

Family 2020 392号



表紙のこぼ(こどもとスポーツ)

42.195kmの公道コースを使った陸上競技の長距離走。花形スポーツであるマラソンは、いつの時代も観る者を魅了し、記憶に残る名勝負が生まれます。2020年8月には、北海道札幌市街を世界のトップランナーが走り抜けます。最近では、「ハッカソン」や「アイデアソン」など、長時間にわたる達成感の強い仕事の例えとしても使われています。



2020年 新年のご挨拶

FUJITSUファミリー会 会長
JXアイティソリューション株式会社 内田 悟

あけましておめでとうございます。
会員の皆様におかれましては、新たな気持ちで新年を迎えられたことと思います。2020年が皆様にとって、より素晴らしい年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。
令和元年は、新天皇のご即位など国を挙げたお祝いがあった一方で、台風15号、19号などの大規模自然災害による被害に見舞われた年でもありました。被害に遭われた皆様ならびにご家族、関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。
FUJITSUファミリー会は、ICT業界における日本最大規模のユーザー団体です。私が会長に就任したときから申し上げておりますのは、「数」は組織における力の源泉であるということです。皆様のご尽力のおかげで、この3年間で400会員ほど増加し、昨年度念願の4,000会員を突破し、現在約4,250会員ほどまで来ております。秋季大会も毎年皆様が参加したいという企画を揃え、昨

年の福岡大会では延べ2,172名と、過去最高のご参加をいただいております。またグローバル人材の育成にも力を入れてきており、年2回の海外セミナーも定員を超える会員の皆様にご応募いただいております。このように数字に成果が表れてきたのも、会員の皆様、富士通関係者の皆様のご協力、ご支援のおかげであり、改めて感謝を申し上げます。

2020年の行事活動においては、北海道から沖縄までの11支部とLS研究委員会が、ICT情報の提供はもとより、会員相互の情報交換や会員企業の人財育成など、皆様にお役にいただける魅力ある活動を行ってまいります。年間約500のイベントを行い、3万人ほどの方々にご参加いただく予定です。

会員の皆様には、これまで以上にファミリー会の場を大いに活用いただくとともに、2020年も変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2020 会報Family新年ご挨拶

富士通株式会社 代表取締役社長 時田 隆仁

新年おめでとうございます。会員の皆様には、日頃より格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。新しい年が皆様にとりまして、よりよい一年となりますことを心から祈念いたします。

ファミリー会は、昨年も多くの新たな会員様をお迎えし、4,250社を超えました。また福岡で行われた秋季大会も、過去最多の方にご参加いただき大変な盛会でした。内田会長ならびに関係の皆様のご尽力のもと会が発展していく姿を喜ばしく思います。

今、「デジタルテクノロジーを活用して新たな価値を生み出したい」という機運が、世界中のあらゆる業種のお客様において高まっているのを実感しています。また、気候変動や変化する世界情勢など経営環境の不確実性が増す中で、リスクへの対処においても技術の活用に関心が高

寄せられています。私たちテクノロジー企業には、経営のパートナーとして、あるいは社会インフラの担い手として、これまで以上の活躍が期待されていると感じております。

私は社長就任に当たり、「富士通はIT企業からDX企業に変わります」と宣言しました。私たちは、お客様とともに社会に価値を届けることができる企業でありつづけることを目指しています。そのためには、自らのDXを成し遂げること、そしてお客様のDXのパートナーとして選ばれる存在になること、その両方を追求してまいります。

2020年もファミリー会の皆様と連携を深め、ともに成長し、お客様や社会にとっての新たな価値を生み出してまいりたく存じます。

何卒、倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

FUJITSUファミリー会 2019年度 秋季大会

2019年11月14日(木)・15日(金)
ヒルトン福岡シーホーク・
JR九州ホール・JR博多シティ大会議室



2019年秋季大会は、11月14日～15日の2日間、全国から延べ2,200人の会員や関係者が集まり、福岡県福岡市で開催されました。冒頭のウエルカムイベントでは、博多にわか五月会による「博多にわか」が披露され、福岡市の指定無形民俗文化財であり、古くから博多に伝わる笑いの伝統芸能で、会場は笑いの渦に包まれました。

内田悟会長は、全国で発生した大規



模自然災害の被災者へのお見舞いとともに、「活動内容の一層の充実が“数は組織の力の源泉”と言い続けてきた成果に結び付いてきた。長きにわたり、活動を引き継いでこられたことに感謝を覚える」と挨拶。来賓の福岡県大曲昭恵副知事からの歓迎の祝辞に続き、富士通の時田隆仁社長は、「これまでの仕組みや取り組みを良い方向に変えて、お客様と一緒に、社会に役立つ、日本を元気にするパートナーになれるよう変わっていききたい。先頭に立って頑張っていきたい」と述べられました。

続いて特別講演、記念講演、3つのセッション、新設された「リーダー層向け研修」を開催。懇親会では和やかな雰囲気の中、会員同士が歓談し、次の開催地・東北での再会が呼びかけられました。



FUJITSU
ファミリー会
会長
内田 悟氏



福岡県副知事
大曲 昭恵氏



富士通株式会社
代表取締役社長
時田 隆仁氏

司 会



フリーアナウンサー
陸門 薫氏



FUJITSUファミリー会
常任理事
大林 孝至氏

福岡ウエルカムイベント

「博多にわか」 演者：博多にわか五月会（博多仁和加振興会所属）



「ぼてかずら」に「にわか面」と言われる半面を着け、博多弁を使い、会話の最後に面白いオチを付けてまとめる。世相を反映させたユーモラスな即興笑劇。



プロランニングコーチ、
駅伝・マラソン解説者
金 哲彦 氏

特別講演

「病気かもしれないが健康でもある」

箱根駅伝とマラソンの選手として活躍され、現在はプロランニングコーチ、マラソン・駅伝での解説、さらには、昨年放映されたNHK大河ドラマ『いだてん〜東京オリムピック噺』でマラソン指導も担当された金さんから、走ることの喜びと健康についてお話しいただいた。

ご参加者の声

ランニングにはダイエットや体力増強の他に様々な効果があると聞き、試してみようかと思えます。腕等の抗重力筋を使うことによりセロトニンが分泌され、幸福感を感じスッキリしてストレス解消。また、ランニング中の段差等の危険判断に、脳の前頭前野を使うため頭も良くなるそうです。



俳優
石丸 謙二郎 氏

記念講演

「各駅役者の旅」 ― 豊の国への想いと我が俳優人生 ―

映画、ドラマ、舞台など、マルチにご活躍中の石丸謙二郎さん。本講演では、俳優業への想いや故郷「大分県」の魅力と、石丸さんの代名詞とも言えるテレビ番組「世界の車窓から」におけるナレーション秘話をお話しいただいた。

ご参加者の声

「世界の車窓から」のナレーションを30年以上続けている石丸さんですが、一方で常に新しいことにチャレンジして極めていくというお話に感銘を受けました。現在チャレンジ中のピアノの調べを懇親会後のロビーで拝聴しました。



太宰府天満宮 権宮司、
文化研究所主管学芸員
味酒 安則 氏

セッション1

「古代大宰府の歴史と文化」 ― 令和を迎えて ―

大宰府は、九州の統轄、外交、辺境防衛の任を担って設置され、520年間その位置を変えることなく君臨している。その大宰府は、大陸文化を受け入れる「窓」だった。今、太宰府に新たな風が吹いた。新元号「令和」である。古代大宰府から、令和までの歴史と文化について語っていただいた。

ご参加者の声

講師は、菅原道真の門弟、味酒安行から数えて43代目の子孫。話は、古代建築の話、食文化の話、そして新元号「令和」へと進んだ。古代の神秘的な話は、今日の日本に通じるところがたくさんあり興味深かった。



株式会社マルハン
情報システム部 チーフ
水江 文暁 氏
株式会社トヨタシステムズ
コーポレートIT本部
生産物流システム部
部品物流G 主任
内藤 繁貴 氏

セッション2

2018年度LS研究委員会 研究分科会最優秀賞受賞グループ 「ブロックチェーンを活用したシステムの設計開発手法の研究 ―ガイドラインでビジネス革新! 商用化への道―」

ブロックチェーンは様々な分野での活用が期待されている一方で、ブロックチェーンを活用したシステムの商用化は進んでない。この現状を打破するため、商用化を想定した業務モデルのプロトタイプ開発を通じて、企画・開発・運用の工程を網羅的に実践した。その1年にわたる研究の概要と成果を発表いただいた。

ご参加者の声

難解なイメージのあるブロックチェーンですが、企画・開発・運用のすべての工程で利用できるガイドラインを作成されたので、導入のハードルがかなり下がったと感じました。与えられたテーマは「設計・開発手法の研究」でしたが、自主的に企画や運用にまでスコープを広げたという力作でした。



ウェルネスサポート
代表
佐藤 昌久 氏

セッション3

「笑う健康経営®」 ― ココロとカラダの筋力アップ ―

糸口の見えないストレス対策を、健康経営®のティーチング&コーチングで具現化し、労働生産性を上げる。そのカギは、有名経営者も絶賛した“二刀流大谷マンガラ”で大注目の「目標達成原田メソッド」による備え。職場の風通しをよくするコミュニケーションのヒントを満載し、ビジネスシーンでのノウハウをお話しいただいた。

ご参加者の声

労働生産性向上でもメンタルヘルスは重要で、ポイントは「メンタルが落ち込む前」のセルフケア、ということで実践方法をミニ体験しました。大谷翔平選手が高校時代に実践していたメソッドとのこと。セルフケアの重要性を再認識したセッションでした。



人財教育家・
メンタルコーチ
飯山 暁朗 氏

リーダー層向け研修

「最強プラス思考チームのつくり方」

凡人も天才も皆、脳の仕組みは同じ。この脳の仕組みを理解し、脳を活用できるかどうか凡人と天才を分ける差になっていると言っても過言ではない。脳の仕組みと機能を知り、プラス思考になるための脳の使い方を解説いただいた。また、やる気がないときの気持ちの上げ方や逆境に強い心を作る方法など、あきらめにくいメンタル作りについてもお話しいただいた。

懇親会



今年も会員同士の交流の場として盛り上がった



地酒が並び横で、とんこつラーメンが振る舞われた



乾杯

福田理事による
乾杯のご挨拶



大会旗リレー

九州支部 仮屋支部長から、
東北支部 小野木支部長へ



中締め

仮屋支部長と九州支部幹部
の皆様

オプション行事

全コース共通：金 哲彦のランニング教室（福岡市大濠公園）

●セミナーまたは研修&交流行事（半日見学コース）

- I 「5Gで加速するDX（デジタルトランスフォーメーション）」
- II 「地域課題解決をテーマとしたオープンイノベーションの取り組み」

研修

マネジメント層向けワークショップ「変革のための第一歩」
ーDX推進xデザイン思考ー

交流行事

- A 令和ゆかりの地を巡る 太宰府天満宮&坂本八幡宮参拝
- B 世界文化遺産「宗像大社」^{むなかたたいしゃ}神宝館と宮地獄神社

●交流行事（1日見学コース）

交流行事

- C 最先端とレトロに触れるロボット製造工場見学と門司港
- D 大分のワイナリー探訪と日本新三景「耶馬溪」^{やばけい}
- E 日本三大松原や神秘的の洞窟へ 呼子と佐賀の紅葉めぐり
- F 九州新幹線で行く熊本城と大自然を満喫
- Golf 懇親ゴルフ会



A



B



C



E

LS研究委員会では、2020年度研究分科会／短期研究分科会の参加者を募集いたします。LS研究委員会のスローガン「Challenging Innovation」のもと、研究分科会21テーマ、短期研究分科会4テーマを用意しました。多数のお申し込みをお待ちしております。

2020年度活動

参加者募集中

研究分科会

4月から翌年3月まで1年間
原則月1回実施

「先進的 ICT 適用」や「情報システム部門が抱える課題解決」などについて、問題意識を持ったメンバーが集まり、Give & Take の精神で共同研究を行い、成果を創出し、実ビジネスに活かすヒントを得る活動です。1年間の研究活動を通じ、今後の情報システム部門を担う人材育成および異業種・異文化間のネットワークングも目的としています。

カテゴリ	No.	研究分科会テーマ
ICT 戦略／ 人材育成	1	レガシーシステムに捉われない DX 実行プランの研究
	2	DX とレガシーシステムの協調を可能とする過渡期のシステムモデルの研究
	3	レガシーシステムの効率的な整理方法についての研究
	4	DX を推進していくための人材戦略の研究
	5	「サブスクリプション型のサービス化」に向けた情報システム部門の取り組みの研究
	6	RPA による定型業務自動化を成功に導く組織戦略およびマネジメント手法の研究
	7	「システム運用要員」の新たな IT 人材への転換についての研究
技術／技法	8	AI 開発・運用の品質維持・管理技法の研究
	9	データ利活用のためのデータマネジメント技法の研究
	10	データ利活用促進に向けたデータ分析に必要なデータを効率的に収集する技法の研究
	11	SoE 構築におけるフィジビリティを確保するプロセス・手法の研究
	12	MSA を適用したサービス開発実践に基づく MSA 選定・適用評価手法の研究
	13	キャッシュレス決済時の認証をはじめとしたセキュリティ対策の研究
	14	IT と OT の統合に向けたセキュリティポリシーの研究
	15	企業ネットワークを変革するクラウド／ネットワーク仮想化技術の適用についての研究
管理／運用	16	DX を支えるインフラ・運用基盤に求められる要件と設計の研究
	17	AI/RPA 利用・運用におけるリスクマネジメントの研究
	18	運用業務における自動化の最適化と自律化の研究
	19	SRE 人材に必要な手法の研究
	20	クラウドシステムの障害が及ぼす影響範囲・早期復旧手法の研究
	21	実運用を見据えた IoT システムの構成方法の研究

(上記のテーマ名は変更される可能性があります。正式なご案内をご覧ください。)

過去の研究成果は ▶ <https://jp.fujitsu.com/family/lsken/activity/work-group/> 「過去の活動内容」をクリックしてください。

短期研究分科会

5月から10月まで半年間
原則月1回実施

タイムリーで実践的、先進的なテーマに対し、市場動向の調査や企業の取り組み状況などの情報を共有します。参加メンバーによる意見交換、調査、検討に重点を置き、

調査報告書をまとめた後、成果報告会にて活動結果を発表します。1年間の研究分科会と同様に、富士通グループよりテクニカルアドバイザーが活動をサポートします。

No.	短期研究分科会テーマ
1	情報システム部門における UX ・利用時品質向上の潮流、手段の研究
2	ゼロトラストネットワークの導入に向けた技術選定・適用技法の研究
3	5G/Wi-Fi6 を活用した次世代ネットワークの調査研究
4	エンドユーザー向けデバイスのライフサイクルマネジメントの再定義についての研究

(上記のテーマ名は変更される可能性があります。正式なご案内をご覧ください。)

過去の研究成果は ▶ <https://jp.fujitsu.com/family/lsken/activity/s-work-group/> 「過去の活動内容」をクリックしてください。

2019年度活動報告とご案内

ダイバーシティフォーラムは、ダイバーシティの観点で他社の事例や参加者の関心のあるテーマを取り上げ、参加者同士で対話し働き方や価値観と多様性を考える場です。LS研セミナーは、先進的なシステム・ビジネスの事例紹介を中心に、情報システムの企画／運用やICT戦略についての情報交換を行う場です。

ダイバーシティフォーラム

FUJITSUファミリ会関東支部と共催イベント
年1回実施

【2018年開催のテーマ】
「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）の
克服によるダイバーシティの実現」

於：東京

多様な人材の活用によって、企業の競争力を高めようというダイバーシティ（多様性）の動きが進んでいます。本フォーラムは、年齢、性別、人種などの違いだけでなく、文化や、キャリア、考え方なども含め、違いを理解、受容するマインドを醸成し、企業内での働き方に活かすことを目的としています。そのような観点で他社の事例紹介や参加者の悩みや関心のあるテーマを取り上げ、グループワーク形式で、年に一度開催しています。

次回は2020年2月14日（金）に開催予定です。



【参加者コメント】

- 初めて参加したが講義もディスカッションも良い意味で気楽な雰囲気の中で、普段意識しないことを考えることができた
- 内容の濃さと情報量として満点です
- お客様やパートナーの幅広い方々との良い交流の機会となり、まさにダイバーシティの大切さを改めて感じた
- 適宜なテーマと感じた。参加者と話したところ『テーマに興味を持ち参加を決めた』という方が多くいた

LS 研セミナー

ICT部門の部長～リーダー層向けイベント
年3回実施

【第2回：テーマ】
「データ利活用によるビジネス推進」

於：東京・大阪

お客様や富士通の事例紹介を中心に最新の情報提供を行う「LS研セミナー」。第1回は7月26日に東京で「セキュリティ」をテーマに開催しました。第2回は11月6日に東京、11月12日に大阪で上記テーマで開催しました。富士通からはDX推進に向けた最新動向、お客様からはデータ活用を通じて、新たな価値や事業を創出する事例紹介をしました。そして、2019年度LS研情報化調査の結果報告を行いました。

第3回は2020年2月26日（水）に開催予定です。



【参加者コメント】

- 最新の技術動向やそれに対するユーザー側の取り組みを共有される点が非常に良かった
- トrendに基づいた問題意識と具体的な取り組みの紹介をいただけた
- まさに時流に即したテーマであり内容であった
- データ利活用とDXが良く理解でき、データ利活用の成熟度などもわかりやすかった

情報化調査
LS研ICT白書
 会員企業における
 ICT活用に関する調査

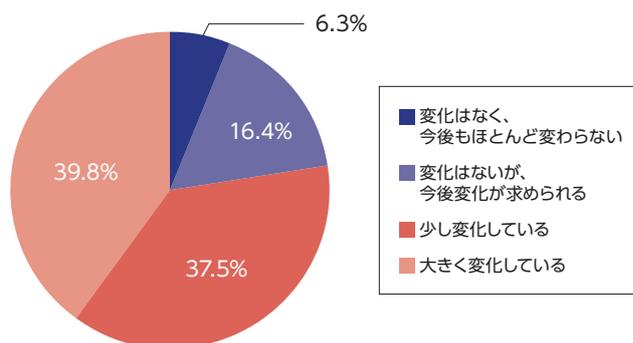
LS研ICT白書は、LS研究委員会の会員企業におけるICTの活用の現状と今後を把握することを目的に調査した報告書です。

Give & Takeの精神に則り、調査にご協力いただいた会員のみ配布をしております。2019年度も多くの会員の方々にご回答いただきました。ご協力に感謝申し上げます。

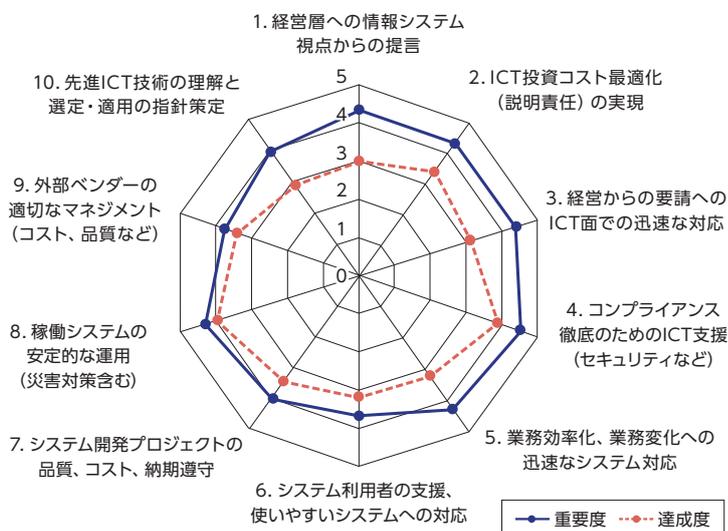
今年度のICT白書では、従来の調査テーマに加え、「デジタルトランスフォーメーション (DX) への取り組み」をトピックテーマとして調査しました。

情報システム部門の
 役割と機能

- 情報システム部門の役割については「変化している」と「今後変化が求められる」を合わせた割合が93.7%となっている。特に「大きく変化している」は、2017年度34.7%、2018年度37.3%、2019年度39.8%と増加傾向にある。引き続き、情報システム部門の役割が加速していると言える。
- 情報システム部門の役割として最も重要視されているのは、「コンプライアンス徹底のためのICT支援」、次いで「経営層への情報システム視点からの提言」、「経営からの要請へのICT面での迅速な対応」、「ICT投資コスト最適化の実現」となっている。
- 重要度と達成度の差分の傾向は、「外部ベンダーの適切なマネジメント」、「稼働システムの安定的な運用」、「システム利用者の支援、使いやすいシステムへの対応」等、従来から情報システム部門に求められている役割・機能の達成度は高い。
- 一方で、「経営層への情報システム視点からの提言」、「経営からの要請へのICT面での迅速な対応」等の役割・機能については、情報システム部門として対応が十分でないとの意識が強いことがうかがえる。



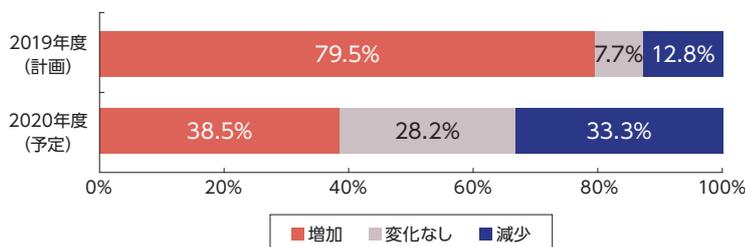
図表1. 情報システム部門の直近3年度間の役割変化に対する認識 (有効回答:128会員)



図表2. 情報システム部門の役割と機能に対する重要度と達成度の認識 (有効回答:124会員)

情報システム部門の
 ICT投資状況

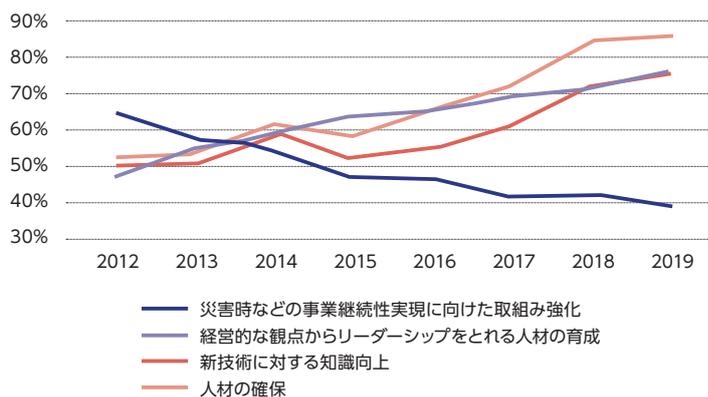
- 2019年度は2018年度よりICT投資額を「増加する」が「減少する」を大きく上回っているが、2020年度は2019年度よりもICT投資額の割合は、変化なし～減少傾向にある。



図表3. ICT投資額の増減傾向 (有効回答:39会員)

情報システム部門における課題

- 人材確保や経営的な観点の人材育成、新技術対応に対する課題認識が高まっている。
- 一方、BCP(事業継続計画)への対応は、課題認識としては下がってきている。



図表4. 情報システム部門の課題 (変化が大きい項目のみ)
※各年の件数比率を比較。回答数は年によって異なる。(110-130件程度)

デジタルトランスフォーメーション(DX)への取り組み

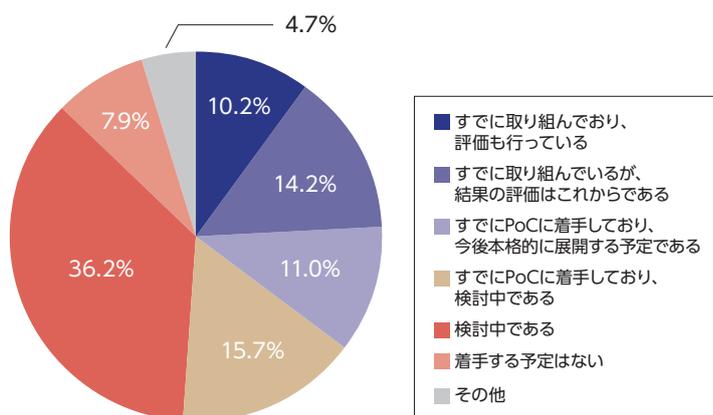
(1) 全社的なDXの状況

～DXに取り組む意義はすでに会員組織に浸透～

- 組織としてDXに「着手する予定はない」とする会員の比率は7.9%で、9割近くがすでにDXの検討を行っているか取り組みを実施している。PoCを含め、すでにDXに着手している会員組織(51.1%)は過半数を超えており、検討中の会員組織(36.2%)を上回った。また、すでにDX施策の評価段階に至っている組織は約1割という結果であった。
- このことから、DXに取り組む意義はすでに会員組織に浸透しており、各社でDX施策の実行段階に入っているが、現在はその方法論や成果が問われ始めている段階にあると考えられる。

本調査においては、デジタルトランスフォーメーション(DX)を下のように定義した。

先進的なデジタルテクノロジーを活用して、従来の事業や業務を「ドラスティックに改善または変革」し、競争力の優位性を高めようとする取り組み

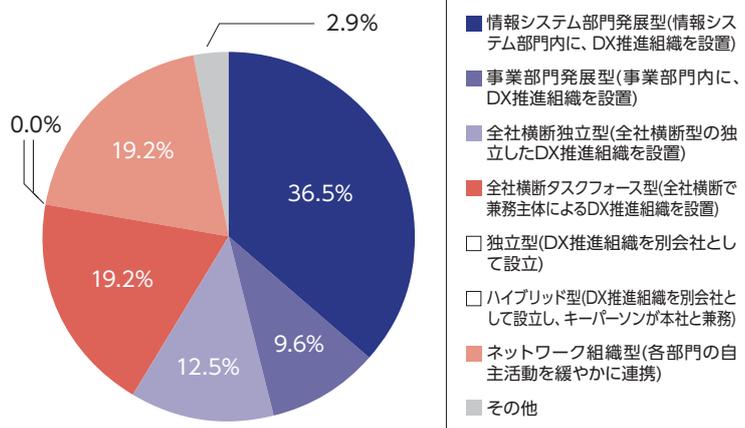


図表5. 全社的なDXの状況 (有効回答:127会員)

(2) DX推進体制

～情報システム部門発展型と組織横断型～

- 「情報システム部門発展型」(36.5%)と「組織横断型」(50.9%)に大きく二分される。「事業部門発展型」(9.6%)は少数派。
- 本調査にて、それぞれの体制における長所と短所を問い分析をしたところ、「情報システム部門発展型」では、「多様なアイデアが生まれにくい」ことや「市場や顧客に対する知識不足」といった課題を回避した取り組みや、社内外のリソースからニーズやアイデアを補完する仕組みの必要性が示唆された。また、「組織横断型」では、明確な目標や評価を共有することによる進捗管理とスピードアップの取り組みが必要と考えられる。



図表6. DX推進体制 (有効回答:104会員)



2019年度
FUJITSUファミリー会 秋季大会
特別講演

プロランニングコーチ/
駅伝、マラソン解説者

金 哲彦 氏

Profile

きん てつひこ 1964年北九州市生まれ。中学から長距離を始め、早稲田大学入学後、1年生で箱根駅伝の5区に抜擢され、1985年には同区間で新記録を樹立、早稲田の2連覇に貢献。1986年にリクルートに入社後、ランニングクラブを創設し、有森裕子など、数々のオリンピック選手を指導。2006年にステージⅢの大腸ガンの手術を受けるも、3年後に復活し、フルマラソンを完走。現在は、NHK BS1のランニング情報番組「ラン×スマ 街の風になれ」にレギュラー出演、2019年NHK大河ドラマ『いだてん〜東京オリムピック騒〜』ではマラソン指導を担当。テレビやラジオの駅伝・マラソン解説者としても活躍中。

病気かもしれないが健康でもある

マラソン開催地の 突然の変更について

オリンピックのマラソン開催地が東京から札幌へ変更となったことが大きなニュースとなっています。

そもそもの発端は、夏に開催されたドーハ世界陸上の女子マラソン。レースは、中東特有の猛暑を避けるため深夜開催としたものの、出場選手68人中28人が途中棄権し、大会史上最低の完走率となりました。IOC(国際オリンピック委員会)は、この事態を重く受け止め、同じ夏に開催される東京2020オリンピックのマラソン開催地を東京から札幌に変更すると発表。この突然の開催地変更には、私も大変驚きました。

現地のドーハには、私も解説者として滞在していましたが、気温30度以上、湿度70%を超える環境は、確かに苛酷なものでした。しかし、男子マラソンで優勝したエチオピアの選手が「暑さへの対策を練ってきた」とインタビューで

語ったように、事前にわかっていたら準備ができるはず。出場するのは世界のトップ選手ばかりですので、東京ではドーハのような事態にはならない。そのように考えていた私には、IOCの判断は少し強引なものに思え、とても残念です。とはいえ、決まったことは仕方ありません。選手や関係者の方々は、気持ちを切り替えて、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。

間近に迫った大会本番に 向けて代表選考レースも いよいよ佳境に

新国立競技場の完成も間近、自国開催のオリンピック本番が近づくと、各競技の代表選考レースもその激しさを増しています。

マラソンの代表選考では、一発勝負で決まる「マラソングランドチャンピオンシップ」が9月15日に東京で開催され、富士通の中村匠吾選手が、粘り強い走り^{しよご}で優勝。見事に代表権を獲得しました。

その他、2位にはトヨタ自動車の服部勇馬選手が入り、代表に内

定。女子では、天満屋の前田穂南選手が優勝、2位に日本郵政グループの鈴木亜由子選手が入り、2人とも出場権を獲得しました。現在は、男女ともに、残り1枠の代表権を賭けて、熾烈な戦いが続いています。

さらに、マラソンと同じ長距離種目として注目してほしいのが「競歩」です。すでにドーハ世界陸上の50km競歩で優勝した富士通の鈴木雄介選手が代表に内定。鈴木選手は20km競歩の現世界記録保持者でもあり、金メダル候補の筆頭と目されています。鈴木選手以外にもドーハ世界陸上20km競歩で優勝した山西利和選手など、日本の競歩界には世界トップクラスの才能が集まっており、マラソン以上に大いに期待できる種目です。

オリンピックにおける マラソンの歴史

皆さんは現在、NHKで放送中の大河ドラマ『いだてん』をご覧になっていますか。このドラマで

は、オリンピックやマラソンの歴史が詳しく描かれています。

もともとマラソンは1896年にアテネで開かれた第1回のオリンピックで生まれた競技です。その由来となったのは、紀元前490年の「マラ톤の戦い」と呼ばれる戦で、アテネがペルシアとの戦いに奇跡的に勝利した際、戦地のマラトンからアテネまでの約40kmもの道を、フィディピデイスという兵士が命を賭して走り伝えたという故事が元となっています。このことからわかるように、マラソンは単に順位やタイムを争うだけの競技ではなく、よりドラマチックなオリンピックを象徴する競技として位置付けられています。現在まで、マラソンが大会の最終日に行われていることから、オリンピックにおけるその存在感の高さをうかがい知ることができます。

マラソン大国・日本のランニング文化

次に、日本におけるランニング事情について話をしたいと思います。

日本では現在、ランニング人口がどんどん増えており、2015年にはフルマラソン完走者の数が世界最多となりました。

日本がこのようなマラソン大国となったのは、2007年の東京マラソン以降のことで、この大会から完走の制限時間が5時間から7時間に緩和されたことが大きな要因だと言われています。それまで、フルマラソンはトレーニングを積んだ選手だけが走るものでしたが、制限時間が大幅に緩和されたことで多くの市民ランナーがフルマラソンに挑戦するようになりました。

こうしたマラソン人気から、今

では、週末ごと全国各地で個性豊かなマラソン大会が開催されるようになっていきます。また、各地のマラソン大会に参加すると同時に、その地方の観光を楽しむ「旅ラン」と呼ばれる旅行スタイルが注目されるなど、日本独自のランニング文化が育まれています。

走る喜びを通じて心身ともに健康になる

それでは、ランニングをすることで私たちの心や体にはどんな効果があるのでしょうか。

まず、なんと言っても走ることは人の運動の基本であり、体の健康維持につながります。実際、「最近運動不足だから」とか「医者に薦められたから」といった理由でランニングを始めた人も多いのではないのでしょうか。

また、ランニングを始める動機で多いのが「ダイエット」。通常、ランニング時には心拍数が120程度になりますが、これは体内の脂肪が最も効率よく燃焼する心拍数だと言われています。また、ランニング時に腕を振ることで、肩甲骨あたりにある「褐色脂肪細胞」と呼ばれる脂肪が燃焼し、ダイエットに非常に効果があるそうです。

ランニングは体にいいだけではありません。人は走ると、「ドーパミン」「ノルアドレナリン」「セロトニン」といった脳内ホルモンが分泌され、ワクワクした気持ちや幸福感を感じ、ストレス解消につながります。よく「ランナーズハイ」という言葉を耳にしますが、これも脳内ホルモンの分泌が関係しています。

さらに、最新の脳科学の研究によれば、ランニングによって脳の前頭前野が活性化され、新しいアイデアやクリエイティブな発想が生まれ

やすくなると言われています。

「病気」と「健康」は体の中で共存している

私は2006年、42歳のときにステージⅢのS字結腸ガンと診断されました。幸い、手術は無事成功し、現在ではフルマラソンを走ることができるほど回復しましたが、この経験から、やはり人は健康でなければ何もできないという思いをより一層強くしました。

現在、約2人に1人の割合でガンにかかると言われていますが、人の体内では毎日のようにガン細胞ができています。健康であればガン細胞は白血球が退治してくれますが、健康が損なわれ、免疫力が衰えるとガン細胞の方が勝ってしまいます。このように、誰もが体の中に少しは病気の芽を抱えています。つまり、私たちの体内には、「病気」と「健康」が共存しているのです。

だからこそ、病気の芽となる生活習慣病や過度のストレスなどには十分な注意が必要です。

シューズさえあれば時と場所を選ばずに気軽にできるランニングは、健康の維持やストレス解消に最適な運動です。日々生まれる病気の芽に負けないためにも、ぜひ皆さんもランニングを始めてみてはいかがでしょうか。





2019年度
FUJITSUファミリー会 秋季大会
記念講演

俳優
石丸 謙二郎 氏

Profile

いしまる けんじろう 1953年生まれ。大分県出身。つかこうへい舞台「いつも心に太陽を」(1978年)でデビュー。1987年からは、テレビ朝日系「世界の車窓から」のナレーションで人気を博す。2018年より、NHKラジオ「石丸謙二郎の山カフェ」のパーソナリティー。落ち着いたトーンの声質と渋みのある演技で、テレビ・舞台・映画と幅広く活躍中。

各駅役者の旅

— 豊の国への想いと我が俳優人生 —

33年目を迎えた 『世界の車窓から』

『世界の車窓から』が1987年にスタートして32年になります。長いのか短いかわかりませんが、自分の名前よりも「世界の車窓から」と言った数の方が多いと思います。

そもそもの企画は「世界を列車で旅する若者の話」というものでしたが、僕は当時33歳。すでに若者とは言えませんし、ナレーションと言えばアナウンサーや声優が一般的なところに、突然、名もなき俳優を連れてきたわけですから、異論もあったようです。ただ、始めてみると、「なんかあの人楽しそうだ」「今までになかった声だ」などと言ってもらえるようになりました。

この間、いろんな珍道中がありました。一度もお休みすることなく続けて来られました。今にして思えば、ケガも病気もしないというところを見抜かれて、キャストイングされたのかと思っています。

丈夫な体を支えてくれた “豊の国”大分の海と山

その丈夫な体を支えてくれたのが、故郷・大分の自然です。大分県は“豊の国”と呼ばれるだけあって、海あり山ありの自然豊かな国。僕は子どもの頃、学校が終わるとそのまま山に遊びに行き、休日には海に釣りに行く、そんな毎日を送っていました。

釣りと言っても海岸からではなく、海に櫓船かきふねをこぎ出して行きます。相撲の双葉山関や野球の稲尾選手が、櫓舟をこいだから足腰が丈夫になったと言われていますが、お2人も大分県の方。僕も同様に足腰が鍛えられました。

山でもよく遊びました。小さなおにぎり1個だけを持って、あとはアケビや桑の実、山芋などを自分で調達する。そんな生活をしていせいか、学校の先生に「将来、なりたいものは？」と聞かれて「ターザン」と答えて「それは職業じゃないでしょ」と怒られた覚えがありますね。

山への思いを振り切って “各駅役者の旅”が始まる

高校を卒業したあとは、役者になろうと日大芸術学部の演劇科に入学しましたが、やはりターザンになりたい気持ちが強くて、土日になると山に登るといった生活を過ごした挙げ句、中退しました。

これではいかんと、1回、山をスパッとやめて、芝居の世界にのめり込んでいると、24~25歳のときに演出家のつかこうへいさんに出会い、舞台生活が始まりました。

ところが、29歳のときに劇団が解散。舞台中心だったので一般的な知名度はなく、名もない、収入もないという日々が続いていたときに、富士通さんから『世界の車窓から』のお話があって、そこから少しずつ仕事をいただけるようになりました。

今日のテーマは「各駅役者の旅」となっていますが、僕は俳優になってから、仕事上で「急行券」をもらったことがない。まるで各駅停車のように、少しずつ、1歩も進まず半歩ずつ進むような仕事ばかりでしたが、これが楽しいんです。各駅役者だったからこそ、いろんな経験ができた、今になって思います。

1日1つのことでは 飽き足らない“Time is 夢” で日々を楽しむ

僕はよく「多趣味」と言われますが、これは趣味とも言えず、好きなことを勝手にやっているだけ。かつては「役者は役者だけやっていればいい」という風潮もありましたが、大分に育った僕としては、どこかターザンが捨て切れず、海や山で遊びたい。そこで37歳のときに飛びついたのがウインドサーフィン。始めたからには徹底する気質で、すぐにレースに出るようになり、10年後には日本3位になりました。

他にもスキューバダイビングや、今はやりのSUP(スタンドアップ・パドルボード)、あるいは三浦半島の海岸線をたどって地図を作ったり、各地の鍾乳洞や沖永良部島の銀水洞、富士山の噴火口などを探検したりしています。

もちろん釣りも大好きで、釣った魚をさばいて振る舞っていたら、友達が「石丸亭」と書いた法被を作ってくれました。

「石丸さん、いつお仕事されてるんですか」と質問されますが、それなりに忙しいんです。だけど1日に1個のことをするだけでは飽き足りないから、例えば午前中に山に登って、午後にウインドサーフィンをして、夜は寝泊まりできるよう改造した車で泊まって、そこから仕事に行く。おかげで時間をうまく使うということ覚えめました。「Time is マネー」じゃなくて、「Time is 夢」ですね。

何歳になっても面白いこと にチャレンジしたい

50歳近くになって、封印していた山に再び登り始めるようになり、それが高じて『石丸謙二郎の

山カフェ』というNHKのラジオ番組をやっています。そんな経験を通じて、やりたいことができなくても、ずっと夢見ていれば、いつかは実現できるということが、わかってきました。

「年寄りの冷や水」という言葉もありますが、むしろ年を重ねてから始めた方が、早く上達します。若い頃は、他にもやりたいことがありますが、高齢になると、そのことだけに集中できる。だから向上心は若いときよりも強いし、人から教わる方法もよく知っているの、何事も遅いということはないんです。

実際、僕がフリーライミングを始めたのは47歳のときで、52歳で国体の予選にも出ました。成績は悪かったんですが、そこから『SASUKE』『スポーツマンNo.1』といったスポーツ番組ともご縁ができました。

「50の手習い」とも言いますが、60歳になったときに突然スキーを始めて、今はピアノも習い始めています。若い頃にバレエや日本舞踊などダンスを習って、特にタップダンスは上達しましたが、楽器は1つもできないんです。そこで、一生に1曲ぐらい、何か楽器を弾いてみたいと思って、『月の光』というクラシック曲を教わっています。

いくつになっても、面白いことにはチャレンジすべきと教えてくれたのは、大分の海や山で遊んだ記憶と『世界の車窓から』。32年にわたっていろんな国々を見続ける中で「こんな世界があるんだ、何をやってもいいんだ」ということに気づかせてもらいました。

「肥垣越える」の 気持ちがあれば 何にでも挑戦できる

「星よりひそかに、雨より優しく」で始まる『いつでも夢を』とい

う曲がありますが、僕はこの曲の「声が聞こえる」という歌詞を、ずっと「肥垣越える」つまり「肥だめの垣根を越える」だと思い込んでいました。

僕がこの曲を初めて聴いたのは、大分の田舎で育っていた頃。当時は畑のそばに肥だめがあって、そこによく子どもが落ちて、みんなのからかいの対象になっていました。そこに垣根があればよかったわけですが、仮に垣根を作ったとしても、勇気を持って乗り越える子どもがいるんじゃないか。そのこと自体に意味はなくとも、勇気を持って肥垣を越えるんだ、「肥垣越えるんだ」と、僕の耳には、心には、そう聞こえたんです。

40歳ぐらいに、カラオケで歌詞を文字で見て、初めて本当の歌詞を知りましたが、僕はずっと「いつも心に夢を、そして勇気を持って生きていきなさい」という歌だと思って、歌ってきました。だから、今でも歌うときは、「肥垣を越える」という思いで歌っています。

僕が今、芝居をやりながらウインドサーフィンをしたり、『SASUKE』に出たりしているのも、この肥垣を越える気持ちを大事にしてきたからです。

これからも、その気持ちでピアノに挑戦しますので、どこかで僕がピアノを弾いているのを見かけたら、「そこまで上手になりましたか」とでも「まだまだですね」とでも声を掛けてもらえたら幸いです。





▶スポーツボランティアのススメ②

前回391号では、ボランティアの定義と、そこから派生する「スポーツボランティアの魅力=楽しさ」について、今回の392号では、東京2020大会のボランティア概要についてお話を伺いました。

公益財団法人笹川スポーツ財団特別研究員

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ボランティア検討委員

西川千春氏



Profile

慶應義塾大学法学部法律学科卒業。米国アリゾナ州立大学サンダーバード国際経営大学院国際経営学修士修了(MBA)。1990年に日本精工(NSK)駐在員として渡英。2005年に海外事業をサポートする経営コンサルタントとして独立・起業。2012年ロンドン五輪に言語サービスボランティアとして参加したのをきっかけに、2014年ソチ大会、2016年里オ大会にもボランティア参加。経験を基にボランティアの楽しさややりがい、さらには日本社会への提言をテーマに政府、自治体、大学、関係団体、企業への講演・アドバイザー活動を積極的に展開。著書に「東京オリンピックのボランティアになりたい人が読む本」(イカロス出版)。

今大会で活躍する 8万人のボランティア

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会(以下:東京2020大会)の公式ボランティアには下限の18歳から80代まで20万人以上の応募があり、関心の高さをうかがわせました。このうちの8万人がボランティアとして活動することになっています。ボランティアたちはどのような場面でどう活動するのでしょうか。東京2020大会組織委員会でボランティア検討委員を務める西川千春さんに、お話を伺いました。

ボランティアが国のイメージを変える

オリンピックは古代ギリシャのオリンピアの祭典を起源とし、1896年にアテネで第1回大会が開催されました。ボランティアの適用は第2次世界大戦後の1948年に行われたロンドン大会あたりから少しずつ始まり、2000年のシドニー大会ではボランティアが楽しそうに活動している姿が報道され注目を集めました。

大ブレイクしたのは、2012年のロンドン大会です。「Games Makers」と呼ばれる7万人のボランティアが大会運営を支え、盛り上げました。私はロンドン大会で初めてボランティアを経験しましたが、運営側もボランティアを良く理解していました。大会のために時間と能力を提供してくれたボランティアに最大限の敬意を表し、アルバイトのように使うのではなく、ゲストとして接してくれていました。そのおかげでボランティアの意欲が高まり、おのずと笑顔に。それが大会の印象に結び付き、堅苦しい国と思われていたイギリスのイメージが一掃されました。東京2020大会の組織委員会もロンドン大会を大きなベンチマークに位置付けていて、「ロンドン大会を追い越すくらいの活躍をしてもらえれば」と期待しています。

9分野で8万人が活動予定

現在、オリンピック・パラリンピックの運営はほとんどマニュアル化され、ボランティアプログラムもその1つに組み込まれています。シドニー大会以降は蓄積されたものを次の大会にレガシーとして受け渡し、それぞれの地域の事情に合わせて変化させて運用しています。

東京2020大会では公式ボランティアを募集するにあたり、役割を次のように9分野に分けました。①案内(観客や大会関係者の案内、チケットチェックや荷物などのセキュリティチェックのサポートなど。空港やホテルなど競技会場以外での大会関係者案内)②競技(競技会場や練習会場内で競技運営をサポート)③移動サポート(大会関係者の会場間移動の際の車両送迎)④アテンド(海外の要人などを接客。また、外国語での選手コミュニケーションサポート)⑤

運営サポート(ボランティアスタッフ対応や、大会関係者へのIDの発行、選手村やメディアセンターにおける物品の貸出しなど)⑥ヘルスケア(急病人の搬送やドーピング検査のサポート)⑦テクノロジー(大会関係者への通信機器の貸出しや回収。競技会場内で競技結果の入力や表示を行う)⑧メディア(国内外のメディア取材の管理や、記者会見をサポート。また、記録用写真、動画の編集や選手村の新聞制作サポート)⑨式典(表彰会場での選手や大会関係者案内、メダルや記念品の運搬など、表彰式の運営をサポート)。ちょっとした手伝いだと思われがちですが、スタッフの多くがボランティアであり、選手や要人の案内、車両の運転、ドーピング検査時の選手誘導など重要な役割を担っているのです。

自国で開催される大会はまたとないチャンス

ある程度の語学力や運転免許などが条件になっている分野もありますが、今回の応募では3つまで希望を出せる方式をとりました。20万人以上から応募があった中で、最も倍率が高かったのは式典。テレビに映るなど目立ちますし、選手を間近に見ることもできますからね。運営側は応募者と面接し、スポーツやスポーツボランティアの経験の有無、語学レベルなどもチェックしながら配置を決定します。なお、希望活動分野を決めかねている人や、どんな分野でも良いのでボランティアとして参加したい人のために、分野の指定なしでも応募できるようにしました。

応募者のうち面接できたのは8万人ほどですが、自国にオリンピックが来て直接ボランティアとして参加できるなんてめったにないチャンスですから、日本だけでなく、海外からの応募や、日本に住む外国人の方の応募も。20代~30代を中心に幅広い層からの応募があり、60代以上のシニア層も多く、最高齢は80代です。皆さん、「ボランティアをやりたい」という熱意にあふれているので、素晴らしい大会になると思います。

協力/公益財団法人笹川スポーツ財団 <https://www.ssf.or.jp/>

会報担当 幹事から



北陸支部
宮田 茂
(株)トヨタレンタリース石川

国立工芸館(東京国立近代美術館工芸館)が2020年の東京オリンピック開催前に金沢に移転オープンとなるようです。日本で唯一の国立で工芸を専門とする美術館が日本海側で初めて誕生します。聞くとところによると、工芸振興のナショナルセンターとして、人間国宝や日本芸術院会員の作品と、日本の工芸の歴史を語るうえで欠かせない美術工芸作品がそれぞれ展示されるそうです。石川県と言えば人間国宝数と日本伝統工芸

展入選者数ともに全国一多い県でもあり、県立美術館や金沢21世紀美術館をはじめ多くの美術館もあります。

私は美術・工芸ともに詳しくはありませんが、年に4~5回は展覧会に行かせていただいております。日頃なかなか目に触れる機会のない作品を1つ1つ観ていると、それぞれの作品に何か伝えようとしていることがあるような気がします。そしてもう1つの楽しみは拝観後のケーキと紅茶です。いろんな楽しみ方がありますので、新しく生まれ変わった国立工芸館で美術・工芸を観覧するのも良いですし、お隣の富山県や福井県にある美術館も回って楽しませてみてはいかがでしょうか。

これを機にぜひとも北陸の方にお越しいただければ幸いです。お待ちしております。

NEW FAMILY 9~10月度ご入会分

- 東北 (株)秋田県農協電産センター
- 関東 一般財団法人 日本海事協会
(株)デルテックシステムズ
(株)アール・アイ
(株)ソリトンシステムズ
株木建設(株)
- 北陸 リコージャパン(株)
Sky(株)
- 東海 丸真(株)
(株)フジトランス コーポレーション
東海ソフト(株)
- 中国 エプソン販売(株)
(株)LUCAS
- 四国 (株)藤田商店
エプソン販売(株)
- 九州 (株)佐電工
リコージャパン(株)
(株)西日本新聞エス・ピーセンター
(株)インパクト
- 沖縄 沖縄コカ・コーラボトリング(株)
琉球通運(株)



新春 プレゼント

東京2020オリンピック出場が決まった、 富士通陸上競技部の中村選手・鈴木選手サインを抽選で 各5名様、合計10名様にプレゼント!



中村 匠吾 選手

中村選手メッセージ

9月のMGC(マラソングランドチャンピオンシップ)で優勝し、東京2020オリンピックの代表に内定いたしました。ここに至るまで、ファンの皆様をはじめ、多くの方々に支えていただきました。改めて感謝申し上げます。マラソンはスタートラインに立つまでの準備が大切です。競技会場は札幌になりましたが、当日どのような条件、状況になっても力を発揮できるよう、練習を重ねてまいります。引き続きご支援・ご声援をよろしくお願いいたします。



鈴木 雄介 選手

鈴木選手メッセージ

9月にドーハで行われた世界陸上の50km競歩で金メダルを獲得し、東京2020オリンピック代表に内定いたしました。当日はとても過酷な環境でしたが、無事歩き切ることができたのは、日頃からご支援・ご声援をいただいている皆様のおかげだと思っています。本当にありがとうございます。今後も日々努力し、東京2020オリンピックでも力を出し切りしたいと思います。今後どうぞよろしくお願いいたします。



プレゼントは
QRコードより
ご応募ください

2020年度
秋季大会東北から元気を発信します
皆様のお越しをお待ちしております東北支部長 小野木 克之 氏
(株)河北新報社

あの3.11から3月で丸9年。関西支部のご理解を得て、2020年度の秋季大会は東北の地で開催させていただきます。当支部では「震災を風化させない」をテーマに2014年から地域活性サマーフォーラムを開催し、被災地から情報発信を続けてきました。今年は東日本大震災から10年目、熊本地震から5年目、そして阪神・淡路大震災から25年という節目に当たります。

日本列島では地震だけでなく台風や豪雨など大災害が後を絶ちません。こうした現状を踏まえ「防災・減災」をテーマに掲げ、九州支部(昨年開催地)、関西支部(来年の開催地)とも連携し災害を共に考え、伝承し

ていく場にしたいと考えています。被災地ツアーも企画します。被災地の復興の現状、東北の今をぜひ目で見て感じていただきたいと願っています。

東北地方は6県それぞれが春夏秋冬一年を通して豊かな自然に恵まれ、海の幸、山の幸の食材の宝庫です。開催地近くでは日本三景・松島から三陸海岸、内陸に足を運べば中尊寺、毛越寺で有名な世界遺産の岩手県平泉、松尾芭蕉が「奥の細道」でたどった山形県山寺、宮城、山形にまたがる蔵王連峰。青森から秋田にかけて位置する白神山地は、日本で最初に登録された世界遺産の一つで、ブナ天然林が世界最大級の規模

で広がっています。お城なら福島県会津若松の鶴ヶ城、青森の弘前城といったところでしょうか。

各地に湧き出る温泉も自慢です。豊富な湯量と泉質の良さから万病に効くといわれる温泉も点在し、湯治文化が今も地域に息づいています。米どころ、水どころとして、忘れてはならないのが、地酒です。江戸時代から続く酒蔵も数多く、酒蔵巡りや各地の地酒を揃えたお食事処で美酒に舌鼓を打つのもまた、楽しみの一つでしょう。

秋季大会は10月8日(木)仙台市で開催します。「がんばろう！復興に向けてみんなと共に」。ファミリー会が取り組む自然災害被災地への復興支援活動への思いを込め、今度は東北から元気と勇気を発信します。10月上旬の東北は暑からず寒からずのベストシーズンです。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2019年度
海外セミナー
レポート

シリコンバレーでイノベーションを体験！海外セミナー

●期間:2019年10月6日(日)~11日(金) ●訪問都市:サンフランシスコ、シリコンバレー(米国)

海外セミナーは、会員企業のグローバルでの知見を広め、相互交流／人材育成の一環として年2回開催しています。今年度は6月にレッドシリコンバレーと呼ばれている中国深圳および香港を訪問、今回は本場のシリコンバレーで、Apple社、スタンフォード大学、OIG (Open Innovation Gateway)を訪問して来ました。

ファミリー会の内田会長を団長とし

て総勢28名、4泊6日で実施しました。サンフランシスコは乾季で気温は20℃、旅程中は快晴が続き、ゴールデンゲートブリッジも霧ひとつない素晴らしい光景でした。

訪問先のApple社では現地スタッフと社風や働き方に関する質疑応答を、スタンフォード大学では日本人医師の、医療現場におけるICT活用を中心とした講演の聴講と広大な敷

地を持つ大学構内の見学を実施しました。今回参加者の評判が一番高かったのはOIGでのイノベーション体験です。OIGは

2015年富士通創立80周年に設立された施設です。去年は半日の滞在でしたが、参加者からの要望により今年は丸1日かけグループワーク実践、発表、外部講師による講評を実施し、本場でイノベーション体験をしました。参加者からは「イノベーションを起こすプロセスを学べて得難い体験」「OIGに充てる時間をさらに長くしてほしい」という声をいただきました。引き続き充実したセミナーを企画していきます。ご期待ください。



ゴールデンゲートブリッジ



OIGでの聴講

参加者が作成したセミナー報告書は、こちらのQRコードからお読みいただけます。



正解者全員プレゼント クロスワードパズル

クロスワードをすべて解いたあと、
2重枠のA~Hの8文字で一つの言葉(解答)を完成させてください。

※それぞれの白いマスにはカタカナが1字ずつ入ります。
※小さい文字(ヤ、ユ、ヨ、ツ等)は、大きい文字として扱います。



タテのキー

- 1 メガ、ギガ、その上は?
- 2 先人たちの〇〇〇(遺物)を引き継ぐ
- 3 1回限りのパスワード 〇〇〇〇〇パスワード
- 4 エアロパーツで向上する〇〇〇〇特性
- 5 平成が終わって新時代
- 6 日本語で同盟罷業
- 7 キャッサパでんぱん使用の人気スイーツ
- 13 イギリスの乳母
- 14 自動的に命令を実行するソフトウェア
- 16 人物画のポーズをとる人
- 18 糸で綴じる日本式製本
- 20 古いバッテリーを新品に〇〇〇〇
- 22 情報の一覧表
- 24 データの転送効率を上げるための仕組み
- 26 機能拡張用のプラグ〇〇ソフト
- 28 ハードディスクは外部〇〇〇〇装置
- 30 長距離レースの代名詞
- 32 その時刻に文書が存在していたことを証明するタイム〇〇〇〇
- 34 電線の金属
- 36 ICは集積〇〇〇
- 38 滝を登って竜になる
- 39 地味ではない

ヨコのキー

- 1 情報通信技術を利用して社外で仕事
- 5 プロセッサ内の高速記憶素子
- 8 眼鏡を外した状態
- 9 長良川の水鳥漁
- 10 SNS の話題
- 11 パソコンを〇〇〇〇に出して新品を買う
- 12 動物を捕らえる仕掛け
- 14 幼児時代からネット環境で育ったIT 〇〇〇
- 15 フグの毒は主にここ
- 17 突然目覚めた〇〇〇ファン
- 19 嫁の相方
- 21 データの削除
- 23 佐渡の保護鳥
- 25 コンピュータ感染
- 27 フロッピーは〇〇ディスク
- 29 当てずっぽう
- 31 ボールを打ちやすいように上げること
- 33 ウェブページを見ること
- 35 別分野に進出する〇〇〇経営
- 37 梅干しの色づけ
- 38 領域が狭くない
- 40 サードパーティではない部品
- 41 システムを実行可能にすること

解答 富士通は

A	B	C	D	E	F	G	H

で豊かな未来を実現します。

ヒントはコチラ → <https://www.fujitsu.com/jp/innovation/digital/>

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	32	33	34	35
36	37	38	39	40	41	42

正解者全員に記念品を贈呈します。

【応募資格】ファミリー会会員企業(団体)の方に限りです。

【解答&当選者発表】393号(2020年2月20日発行/3月号)誌上

【解答送付先】ファミリー会ホームページ

「クロスワードパズル解答募集!!」投稿フォームよりお送りください。

【締め切り】2020年1月31日(金)

<https://jp.fujitsu.com/family/ho/crossword/>

◆解答記入事項◆

- A. 解答(8文字)
- B. 解答者のご連絡先

会員企業(団体)名、ご所属またはお役職、お名前、所在地、
連絡先電話番号、E-mailアドレス

※掲載にあたっては、会員企業(団体)名、お名前(ペンネームでも可)、
所在地を記載させていただきますので、あらかじめご了承ください。



上記QRコードより
アクセスできます

富士山が魅せる自然美と文化にふれる旅 東海道・ふじのくに逍遥



① 田子の浦港 (富士市)

日本人の「心の象徴」として崇拜されてきた富士山。富士山がこれほどまでに日本人の心をひき付けるのはなぜか。古くから信仰や芸術の対象となり、人々を魅了してきた富士山の歴史と文化を紐解きながら、地元の人々がおすすめる絶景の「富士見スポット」を紹介する。

歴史や文化と結び付く 富士山ビュースポット

標高3,776m、静岡県と山梨県の両県にまたがる富士山。広くなだらかな裾野を四方に広げた美しい円錐状を成し、周りにさえぎるものがないため、東西南北どこから見ても均整のとれた美しさを愛でることができる独立峰だ。さらに、周辺の富士五湖や南側の裾野が及ぶ駿河湾が富士山の美しさを一層際立てる。

まさに日本のシンボルとしてふさ

わしい美観を備えた富士山だが、見る場所や時期によって様々な表情を楽しむことができる。

写真①は、静岡県富士市にある「田子の浦港」から眺める富士山。田子の浦港と言えば奈良時代の歌人、山部赤人が詠んだ次の和歌がよく知られている。「田子の浦ゆ うち出てみれば ま白にそ 富士の高嶺に雪は降りける」。当時の田子の浦は、由比あたりの西側の海岸を指すと言われるが、重要な港湾拠点として人々の生活を支える現在の田子の浦

港からも、雄大な姿をとらえることができる。

写真②は、静岡市清水区の「三保松原」。約7kmの海岸に3万本以上の松が茂り、松林の緑と青い海、打ち寄せる白波のコントラストが美しい景勝地だ。天女が衣を松の枝にかけて水浴びをしたといわれる「羽衣伝説」の舞台として知られ、歌川広重の富士三十六景「駿河三保之松原」など、数々の浮世絵にも描かれている。

写真③は、伊豆の山中にある達磨山の山頂から。昭和14年(1939年)に開催されたニューヨーク万国博覧会にこの駿河湾越しの富士山を収めたパノラマ写真が出品され、世界中から絶賛を浴びた。2000点以上の富士を描いてきた画家の横山大観も、この達磨山からの眺めを多数描いている。



② 三保松原 (静岡市清水区)



③ 達磨山山頂「だるま山高原レストハウス」展望台 (伊豆市)



④ 日本平山頂 (静岡市清水区)

写真④は、静岡市清水区にある日本平山頂からの富士山。眼下に清水港を臨み、広大な茶畑の向こうに富士山を仰ぎ見る絶景ポイントだ。冬は「茶草場農法」によって刈り取られた草束が見られるのも静岡らしさ。展望施設「日本平夢テラス」からは、富士山や三保松原、駿河湾、静岡市街地など360度のパノラマビューが楽しめる。

写真⑤は、駿河湾上から眺める富士山。清水港から西伊豆の土肥港まで、駿河湾を横断する「駿河湾フェリー」の船上からは、富士山のなだらかな斜面を海岸線から山頂まで一望することができる。「静岡県道223(ふじさん)号」に認定された航路は、日本一深い駿河湾から富士山を望む高低差日本一のスポットとも言えよう。

「遙拝」から「登拝へ」 信仰が芸術を生み出した

富士山が古来より「日本のシンボル」として崇められてきたのは、シルエットの美しさだけでなく、日本人の心に深く根付いてきた歴史にある。

富士山は過去何度も噴火と溶岩の流出を繰り返し、人々の生活を脅かしてきた活火山だ。激しい噴煙を上げる様子に荒ぶる神の姿を重ねた人々は、富士山を畏怖の対象として崇め、沈静化の祈りを捧げるために浅間大神を祀った。富士山が見える場所に「遙拝所」を構え、そこから浅間大神に祈りを捧げたとされる。

この遙拝が富士山信仰の起源とされており、全国に約1,300社ある浅間

神社の総本社である富士宮市の「富士山本宮浅間大社」は、富士山をご神体として祀る富士山信仰の中心地として知られている。火山活動が沈静化した鎌倉時代になると、仏教の影響を受けた修験道が盛んになり、多くの修験者が山岳修行で富士山に登る「登拝」信仰が増え、やがて江戸時代には長谷川角行を開祖とする「富士講」が大流行を見せた。

富士講は、富士山登拝にかかる資金を講員から集め、代表者が富士や周辺聖地を巡拝する信仰形態だ。

富士講ブームによって一般庶民も富士山に入るようになると、多くの絵師が富士山を描くようになり、誰もが一度は目にしたことのある葛飾北斎の『富嶽三十六景』(写真⑥)や、歌川広重の『東海道五十三次』にも描かれ、西洋の画家にも大きな影響を与えてきた。

文学でも古くは『万葉集』から『新古今和歌集』『伊勢物語』でも詠まれており、夏目漱石の『三四郎』や太宰治『富嶽百景』など近代文学にも登場するなど、多くの芸術家・作家が富士山をテーマにした作品を生み出している。

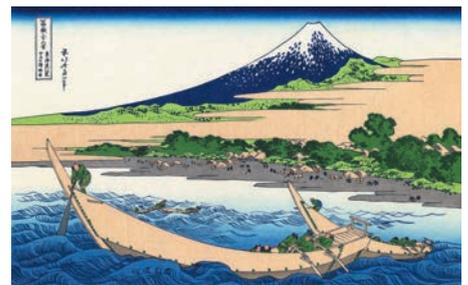
富士山がもたらす恵みも麓に住む人々の暮らしにとっては欠かせない。良質で豊富な湧水は田畑を潤し、ニジマスの養殖やウナギの活け締め、ウイスキーやビールの仕込みにも使われている。

富士山の価値を守り 次世代に受け継ぐために

こうして芸術から世界に知られる



⑤ 駿河湾フェリー (静岡市)「清水港～伊豆市土肥港」



⑥ 葛飾北斎『富嶽三十六景』「東海道江尻田子の浦略図」

ようになった富士山は、2013年6月にユネスコの「世界文化遺産」に登録された。

正式名称の「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」が示すように、山体だけではなく富士山に関わる周辺の遺跡や湖沼、神社など25の構成資産を合わせた「世界文化遺産」としての価値を認められた。現在では富士山を保護する観点から、2か月間で30万近い人が来訪する登山道の整備などが進められている。

富士山という自然に信仰や芸術、生活を通して共生する日本人の見えない価値を守り、未来に受け継ぐためにも、今後さらなる環境保全への包括的な取り組みが求められている。

取材・写真協力/
公益社団法人 静岡県観光協会



FAMILY 通巻392号 2020年1月1日発行

編集責任者 FAMILY編集委員会 山宿 信也
発行 FUJITSUファミリー会

〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 富士通(株)内

Copyright 2020 FUJITSUファミリー会 【禁無断転載】

<https://jp.fujitsu.com/family/>

*本誌記事中の各会社名、各種製品名等は、各社の商標または登録商標です。
*本文にある専門家による情報・意見は、必ずしも富士通・編集委員会の見解を反映したものではありません。